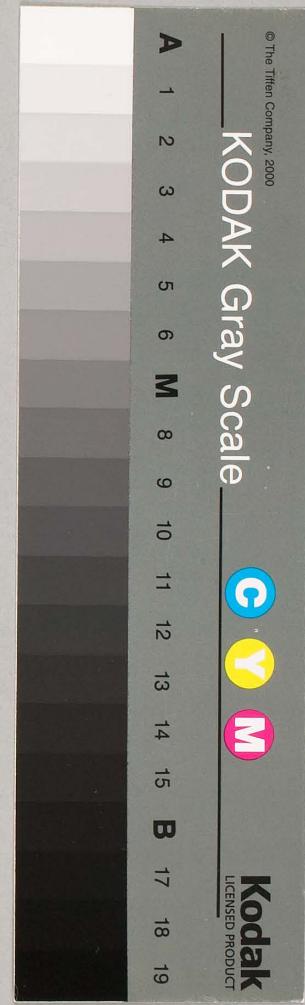
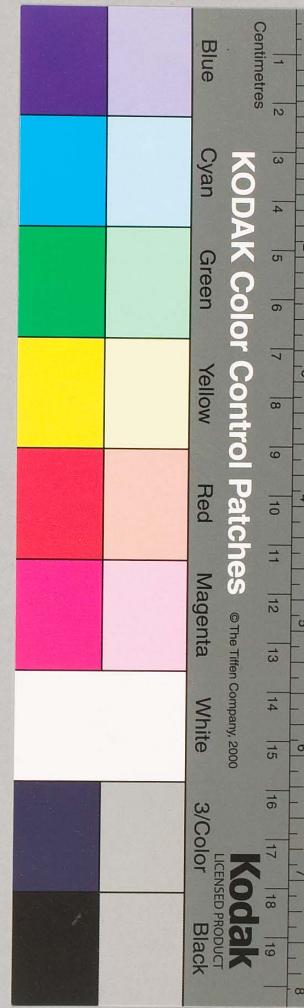


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7



0303

和泉名所圖會

卷之二

大鳥郡

291.6309

Ak

2

和泉名所圖會卷之貳目錄

金光寺夢棚 光明院 不動號
妙國寺 實休塔 名本額鉄
善長寺 將軍松 李候寺
神明社 八幡宮 成就寺
七堂溪 石地藏 千御門跡御坊
乳岡 向井 悲田院 中祖堂
一路舊蹟 番懸松 喬院名畫
二弁天洞 誕生本塔 石津鄉 稲荷祠
三龍穴洞 不動堂 行家松
新大和川 大和橋 凡人中家
經兒社 戶立社 二國衢
波王子 石須社 仙毫殿去地
乳岡 行家松 牛頭大王社 履中大皇陵
一路舊蹟 番懸松 万代八幡宮 家原寺
二弁天洞 誕生本塔 放生池
三龍穴洞 不動堂 華林寺

得月亭
藏書印

喜多八重子氏寄贈





峰田神社
大鳥居王子
演寺趾
行興寺
加田城墟
芭草社
二脇添
金堂

陶荒田神社
芭草社
芝洞

鴨田神社
和田勒登意基
高石神社
妙見山
高倉寺
大日堂
櫻井神社
山井神社
人平寺
道範旧跡
明神
行基井
明神
朝向石
少貫橋
日都神社
大庭寺
峰峯寺
陶器莊
御者堂
羅山子
圓墨十得景

恵子
笑姿社
お綱糸屋





博新水門

場の形乃く貴殿の初う
官室の今あて遠はる
佐土城に運びて之を小
舟に海船に積みて之を
御子神功皇后の皇后的
御紀小住吉太神の
往来と見え
宣へも今も
かりひきまゝれ



卷之三

明院 橋本莊 樹島町小あり 洋土宗 開創者 不動寺に跡に傳昔
神代のあか小等一義今保有候が伝トテ又故平國家泰平公
擁護一事人我へ任吉の時より身と委ス。泰平家清差
うれて後經藏公橋河家の橋小造立ト。身ひく歌原藏と云川ヶ
身共後宇文帝の御宇小一姓景國大侯都かの經藏乃
一堂父當く昂歌原堂と云づく又頤德院の御宇
西山人中興して当候念佛の易いを弘ら貴賤ど他益れ
本尊阿弥陀佛 義覺大师の化
二條實隆脚の事 洋土佛門院の佛塞附供記も
同一く佛製の御宇六首佛号の六字公匂の上小
墨く御せ身公當内侍の体文あり。苗ち初番莊
不動利釈 嵐院の御宇院の佛塞附供記も
同一く佛經卷わり又 極武奉勅等の般若經の佛序
寶昌古漢文等舉く義へ
逍遙院後記云

半らひあく宗拘とりのものとあるとてゐるこゆゆはうりうち
伏せ廿六日の景ふせやうく博小せうはたゆる世系諸の景
より二十首題をうつさうしにかくめく美磨かくせうかくぬ
くとよあくいつもかくふはうりくわうー小奇翁に
をよひそめの奥あとかく

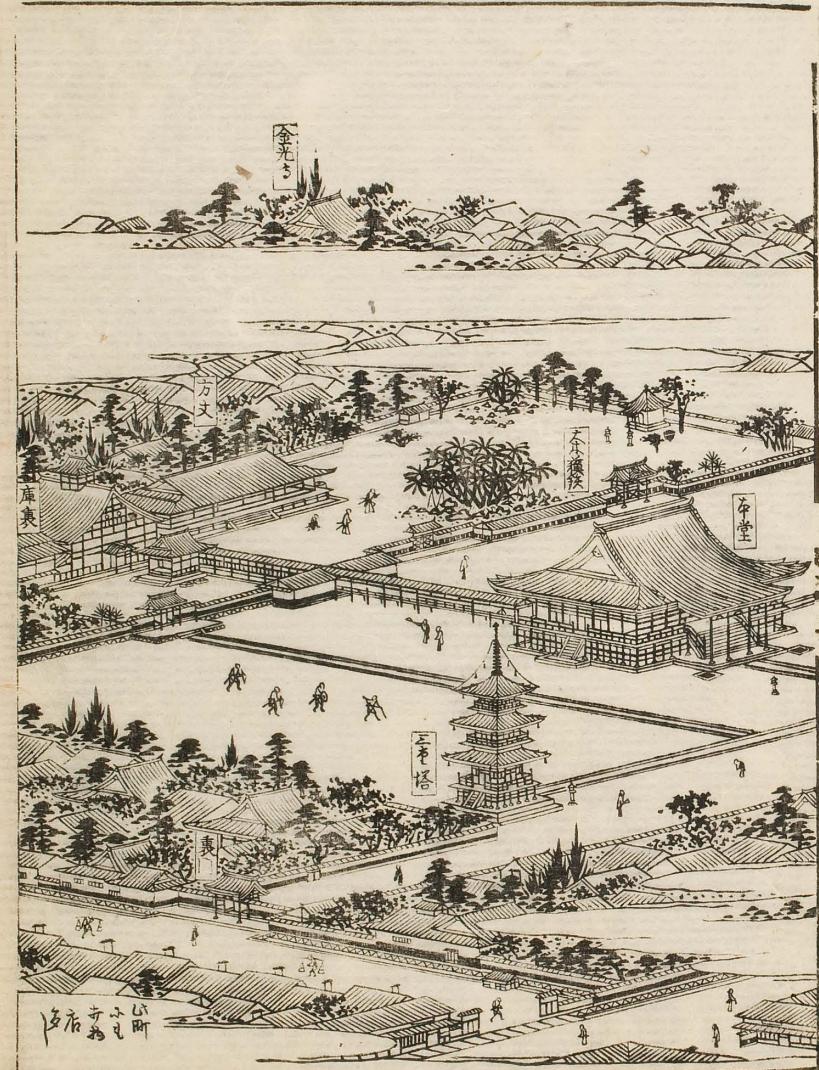
おとこひて船のまくふをほくへんとおまやーはながくへん
江上眺望
あひせり入の舟れタ
寄仙本懲

一九三〇年九月一號

渢ねの名あやことーかとーえに
みーうれしきとー波のうゑ
青くいとーはるか月と秋立ゆ

牡丹花

妙國寺



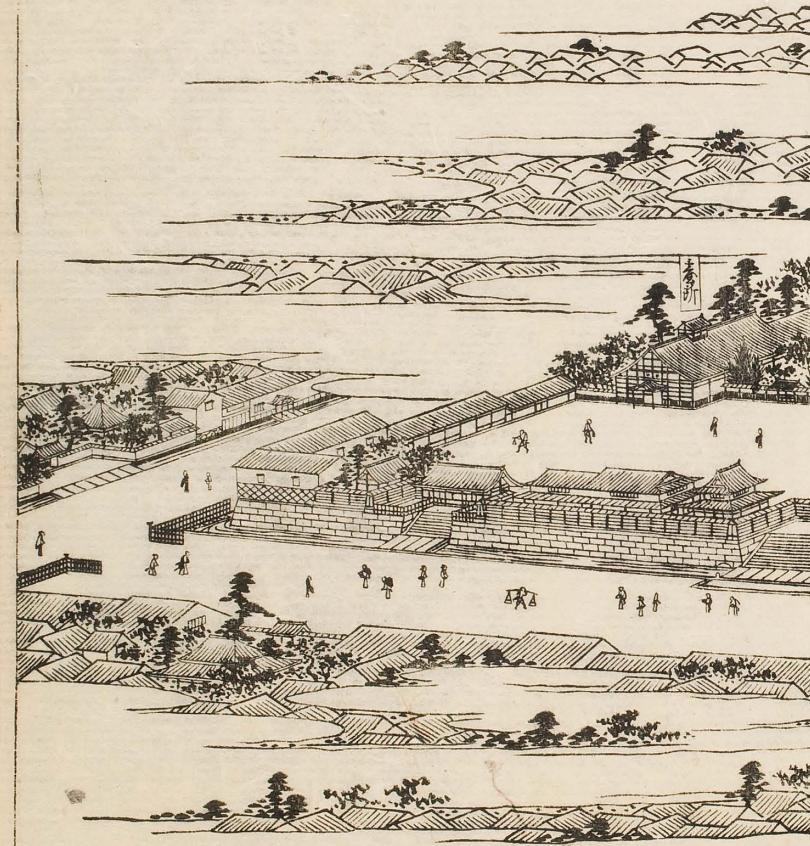
成就寺
六條



芝
長
寺
將軍松



御 標
門 跡
寺 御 預



櫛笥寺

車町の東小あり。開基宗

開基日深上人

明惠元年建立
櫛笥寺本願あり。

虎子石

椎庭町二丁目小祭モ石榜

妙國寺

木町の東小あり。日蓮宗。開基同瑞僧正。寺名へ云。豊原之船の

御堂

御堂と号す。佛堂へ油燈常言建立モ。又實体の舍才安宅本塔はち慈惠庵

尚す小旅く連寄に有句小

右沼の傍さかどり地と称とゆり。

そくた小浦一里の一里也

冬唐

御堂

御堂れ度分五意小軍數れ。實体塔。尚すふわう妙國院殿

御堂

方丈の庭中。曾て二好實体當所住居の時。初て植ゑ

御堂

一代の大株。一根地上十有餘株。とある。其も

御堂

四方、繁茂。大枝廿二本。小枝七拾八本直。あり。曲き。あり。

御堂

熱風を代丈八尺。高サ丈餘枝葉六七寸の際。一回小漫り。蒼色

御堂

ふにて翠密の如一都。或百餘叢の星宿連綿。一ノ累矣。

長じる半周土の赤とひつ。一ノ葉。一株。津ハ海邊。一ノ葉。周

御堂

小紙に寒心防ぐ半袖に拂ひ。殊小地。中。緩氣。あり。御堂

御堂

育むる半周院に隣。いだ寺。及び民家。とも余園に拂うるもの

御堂

多く。冬日。宿處。ひせんして蒼色。四時。もの。一。そす。も。御堂へ

御堂

古木。の。名樹。かく遠近の旅客。當津に来れ。を先。これ。が。一。遠

御堂

て。賞嘆。せ。と。よ。半。か。し。御堂。公。凌。ぎ。千。叢。を。常。小。ど。る。君。子。力

御堂

操。わ。う。貞。ね。と。論。と。同。じ。う。も。る。の。靈。樹。か。く。登。

相模

奥。こ。ん。じ。漢。教。行。え。へ。京。の。大。佛。の。釋迦

成就寺

日蓮宗。宿務町の東小あり。開基同驗上人の師。今。奉

金光明寺

應永十四年。花落同傳上人の師。今。奉。布。乞。れ。を。い。る。條。と。解。り。故。小。經。道。場。と。

阿弥陀佛

二尊。共。感。得。し。う。に。一。如。寺。寺。奈。小。あり。難。若。小。寺。ノ。内。く。

安。盈。一。念佛道場。と。一。如。寺。

紫藤

寺。奈。小。あり。難。若。小。寺。ノ。内。く。

植えや人へ不自由なく枯れ
衰の木小和參一首が傳ひ

李吟

善長寺 神明町の東小町
澤土宗 墓十一面觀世音

小人
少翁
李吟

法主堂の下より松樹の下より
蓋爰が常り松樹の下より
日本を感風の故小松御名とす
凱旋の後神明の如くの故の前公は松枝小かけゆき酒宴にて
軍車の旁で烈火威と輝くゆゑに名わる
神明町の東より
本尊阿弥陀佛 開基玄譽上人
峰土宗 真教の跡院の名す
萬ち小法然上人真教の跡院の名す

支本名號の左右小一筋の和番やう

法然上人

此人云れ少翁破名跡といふ法然上人後向後法室に從ひ四天王寺西門より
來づく日想觀心傳へりと人其時は名跡少翁矣と今の一心寺へ
モ附贊くじ名跡も一心寺の什寶うち断一心寺三百紙墨と應く
太に譽滿に及ぶ此時高寺の玄譽上人祖師の附贊の破壞せん

本御門跡御坊信證院
神明町の東御ゆ文文明年中極本公道頭とし
立院と建立運

泰
本尊阿弥陀佛
本尊の妻に判形ありと云ふ者とが一の御堂
本尊の左の檀上
本尊の御堂に移り安坐すゆゆく間の親鸞聖人新安坐
如上人の善事並て僧侶上人新
德太子の御堂に移り安坐すゆゆく間の親鸞聖人新安坐
如上人の善事並て僧侶上人新
法然上人新安坐
持院の開基ハ本願寺
四男祐氏ゆく人ありて
父八代蓮如上人ありて他小初足利義氏の四男祐氏ゆく人ありて
父母の後薙潔して天王寺小住職其後本願寺第二代費如上人
小褐して一向宗候の念佛り者と歟深光寺は公革新にて奉る
足利將軍尊氏同姓の旧縁ふとて寺地の租税を除く封田二石
公納侍應年中祐氏入道祐源没後封田公蓮如上人小軒御堂
本尊道顯堂く蓮如上人公招請於本堂及書院對面所等

第幾小くも極め画へ右法眼の筆墨書院へ探幽の画へ其外間毎くへ
多く竹源秋紋南の筆にて絵の画へ筆力小眞妙うり画工の規範と
そるく信證院蓮如上人廟堂へ東の方やく中祖とり額あり
礼堂の額へ不羨堂と書いて共小法ぬ上人の墨うり初蓮師
通院小僧居へゆふ附契丹國の詹仲和とて者觀音の示現今
紫雲渡海へナ津小舟を蓬心上人の法水小洋入へ德澤成
作だこれぞ大悲の盡告へく歡喜へ陽圓の後謝恩の為
芳書が贈る今本於す又彼圓の画圖が獻於陳家真宗寺の
神明社神明町神明町奈良神兩右神宮天武帝の御宇向風年中の勅使うり
六月晦日の火移小稚若の神輿大和櫛の前度より遷小海島に出て
七度が歟と號く家隱小至は土人曰け神明社並公避々
一統より七堂の殿小高僧寺の御宇に是こそ御佛也傳
今其御遺りく御地へ神幸ありたると傳也此之を安
實記と云ひ八幡宮本社の左外福善社栗柄社
經王寺九向町の東小あり日蓮宗京師妙覺寺小屬於

開基日延上人 應永年中の建立なり

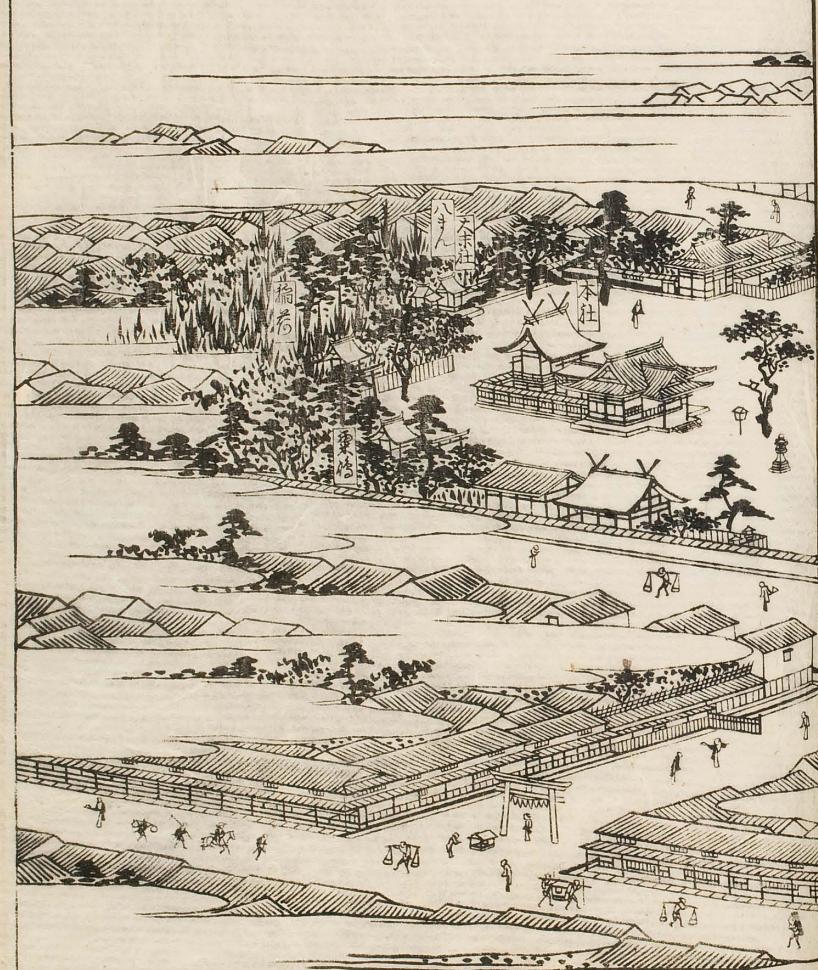
懲田院錦町の東小あり法護山奉尊阿弥陀佛恵心傍部の他うり
開基恩計上人 姓ハ原氏江州の人也延徳年中當院松州惣領
十萬石の號とを初ハ柳町の侯小わり持重徳太子四天王寺
の儀れ懲田院施茶院の本院を初て建立し御座今徳然
又植武天皇平安時代本院を建らば今此地にある事
詳うり北莊の西侯とて相付いひよへ高滿寺の
七堂漢七堂伽藍あり一旧蹟と云

光仁帝寶龜四年十一月勅へく曰大僧正行基へ智德兼備上

一あ先代より推仰するふく後生耳目窮もく所其體りの
院を都へ四十餘室或へ先朝の同施入の田あり武へ本末田園あり
供養の除を得るもより但は六院へいたゞき施例小紙に圓融法藏煙
塵して優位持する徒か一捨余荒涼へて空へく坐禪乃趾众
俗に道を引る人ふよく實小辨属と合て宣大和圓菩提登美
生駒山内園石凝和泉國高瀬山五院名當郡の田二町と捨れ云云

續資本紀

明神社
明神社

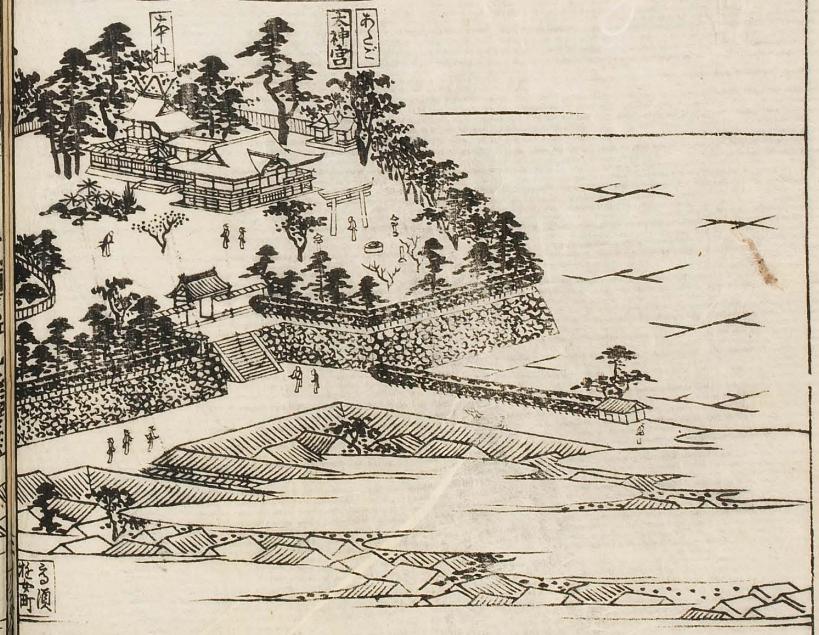




博多名産あのおちや
此小名る一持小
石刻庖丁黒あゆ
諸國小其名ナリ

右
ろし

高須
稻荷社

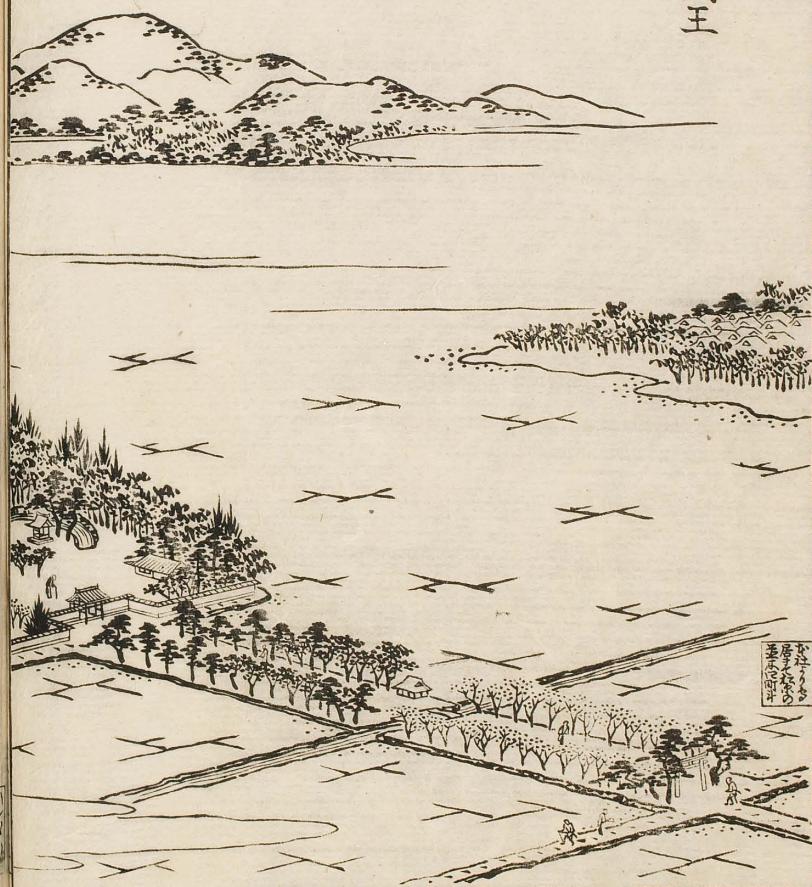


舞入一休



東原天王
塔

おは
居す
まち



東原天王へ
百濟の王仁と
祀るく
廟交御坂河別
小山村中山あり



新太和川

寶永元年八月北莊の水災と防ぐ田園の水浸と防ぐ大和橋同様新川の架設

凡人中家

德人中家の古傳へ姓氏銀云和泉國凡人中家ハ山代

忌すの同祖魯の百龍王の末孫也或曰

龜山法皇泰海平

慈聖人北莊の水小河俗小御父上又王子亂も書く原は地へ

慈聖人

北莊の水小河俗小御父上又王子亂も書く原は地へ

龍井

北莊村小河一名今林井と云ふ味耳くして勝し

石井藏

日野ふありむうひ地藏る子小伝あるもの以後に山井通り

石井藏

小盗賊出力とあら上ヶ首をあ落しよひ正室が

戸立壁

倒ともと輕ふく夜の間も正氣つゝ全身悉か一過堂と

戸立壁

足れど石井藏の脚首切らる如く痛甚かの盜人乃頭り

戸立壁

首切石井とゆんく御事小屋驗難あり

戸立壁

凡人中家のやうに嫁が嫁と云ふ

戸立壁

これと戸立壁と云ふ

向井

茶店公渡く近年は櫻井に櫻井が遠く裏に萬葉三園山の

牛頭天王社

中筋村小河の神中央牛頭天王左東源明神本向井

牛頭天王社

皇子或が日東源明神王仁の靈を向井へ鬼道推引命令と

牛頭天王社

猪瀬せく三社とて拝王仁ハ西源國の人なり應神天皇十六年

牛頭天王社

二月に來朝一昂鬼道令王仁と師と一々人之爲ノノ乃

向井

向井常思井あり公渡く御殿も利牛も日く汲んぐ擔運び

向井

飯を食茶を喰に用ひ

向井

常思井ありえ和一孔の後荒廢一孔止祥うるに慈舜王子記云

向井

王子佛王子又向井王子とて後參拜院慈舜佛寺院小云建仁

向井

元延十月十六日今日佛馬場の王子に參候と云々慈舜九十九所

向井

王子祠へ天子御幸の時佛體息所毎た慈舜遙慕勧請と建仁

向井

至れりと云ふ王子ハ祖神也又王次も書に次ハヤトレと

向井

御心向井ノ御心秋の日ひづふくさりをふねりま

土佐日記云

更級記云

石津郷

佛の南町許にあり上石津下石津とり入姓氏銀見

宿禰

宿禰の流あり

のちの浦と曰ふ浦小舟たゞのまゝあるを極め風ひもさうあく
そくつねうらゆたて舟とくわうてそくつね波のうちくらどとあい
筋のあんほどくろさまがそくう一けあるとくわちのせなうとおりひ
まくともあざうのうへ舟とくわうと舟とあうすゑへやまくれと
ぬふ吹はへ舟出でたりあもあたざうのうへふみ六日松をくじくらう
しと風のむかうやまとと舟のとくわなむけてえりとせとターは
くも小みちくはとあらむわへに入ひのうの聲お一チのみも
かうくみゆ園の人へ向むかへそめ夜あうとゆゑをなして
石はふつせたまへらまへらやうとせ浦舟かくあくねうまき
かとづくふかそうきこゆ

末本

あくねく風のうきた小舟出でてははの波と消えうる

更級記もとさだのうちのまき、恭標きよひの女めの七著しちしょと
和泉いずみの小任ことうとく和泉いずみの國くに府ふ小居こゐに東北とうほく洋本殿ようほんてん七度しちどの肉にくの和泉殿いずみだい
紀傳きぶんの通とおか業わざとく合あ解かい祖そ小船こふねば



万代
南鳥居

古蹟
白海川

万代八幡宮

もづ
えちよしん
ぱう



土師村三万代
上古土師氏
の朝原山今モ
基舊跡あり
岳ノ帝の英名
土師宿禰希代
賢倉貝勇猛
而ノ年卒朝の
史記或ハ兼奏
源も見ぐら
又海國ふも
同名あり今
道明す云



履中天皇陵
延喜諸陵式口
百舌鳥原の南ノ陵へ磐余稚櫻宮御宇
大鳥郡小在北城東西五町南北五町
陵戸五畠

履中天皇六年二月 天皇王體不愈水土不調 稚櫻宮小崩
時ニ冬二月百舌鳥原陵小葬乎 舊事紀同上

古事記曰

二天室御歲陸拾肆歲壬申年正月二日崩に御陵毛受小在

延喜諸陵式口

百舌鳥原の南ノ陵へ磐余稚櫻宮御宇
大鳥郡小在北城東西五町南北五町
陵戸五畠

七十六間

日本紀

十六間

乳園
經覗神社
親者寺村と云
上石津下石津の兩村小ゆ
延喜神名帳曰 石津太神社云
社傳曰 睡兒神 天磐機船 小舟
石津の浦小舟
五色の神石公携來
今社為小なり故に石津と云
其船の名前を石津岩山と云
孝明天皇七年八月十日始ら社公建
事代翁食公保
二度
正月廿日祭系上石津へ八月十四日



倭
博の
傳外の
名産
燒竹
紙
わ
く

上石津社



石津川の
源へ錦雲
が見川あら
陶器の産地
衆水あくふ
會一く
下石津ふ至り
海ふ入ばるね
やく布本縫と
晒一活花小
牛一深地と
さうめり

行家

下石津の水側小あり十浦藏人御葬之文治二年は前少く

対

松代

毛須莊赤畠村小あり百舌鳥裳伏毛受藤伏も者にす

八代

八代八布治朝の毛須莊赤畠村小あり百舌鳥裳伏毛受藤伏も者にす

八代

八代八布治朝の毛須莊赤畠村小あり百舌鳥裳伏毛受藤伏も者にす

飼一らゆ人これ

鷹道の歩りく

新景

あ弟國万代の別宮小糸籠

延喜

新羅國深勝

民やまと國おと傳れせ祈るみのゆとうりの君のと先

奈神

中央應神天皇左佐吉右喜日神功皇后成保也幸

神

鉢明天皇の御宇神諾小より御子御子御子御子御子

本殿

神宮寺達御給馬居并天社茶師堂あり並小御廟山

ありあら百瀬川別當公

重樂院

と延喜新羅國深勝

惠我藻伏山國の陵

輕鳴明官御宇應神天皇河内國志紀郡

小豆

小豆小豆小豆小豆小豆小豆小豆小豆小豆

一路

山禪海寺

石床の上方市村小あり釋宗

開基

一路居士原治西仁和寺一代の御門主より御名

一路

居士

原治西仁和寺一代の御門主より御名

惠我藻伏山國の陵

輕鳴明官御宇應神天皇河内國志紀郡

小豆

小豆小豆小豆小豆小豆小豆小豆小豆小豆



同前
但略
傳
傷仙玄始の名へ以玄安藝國度傳の人へ寄とほみ都小
坐りそ儀同二司實法公小學へ名山靈地をかしまるあさひ
住て定められ世に今西りとくら成すて自も

西り小姿ぞうへ仰されともあらへ君と至深の神

と歎れたり生人の墓訴そぞうあらぬと歎きく石ふ乃救世
菩薩小祠是其靈苦ふもしく海内國弘川寺仏をとめ得より
そこみくわい様と仰ひあへへとをうしよけのあす
さくと石のちやへと達そく其まふ有多背像がも
被りゆく堂が造立一自もふ中に唐云縫びく作り
裏面亭とりへ其財のすく

並あらむむくせ人のねとて弘川寺ふみ波のそで

その店のゆうとを二重二重とそれを人へんて今そく

ゆうらうとせひされ

東家へとまよひて弘川寺の主居する所をあそび

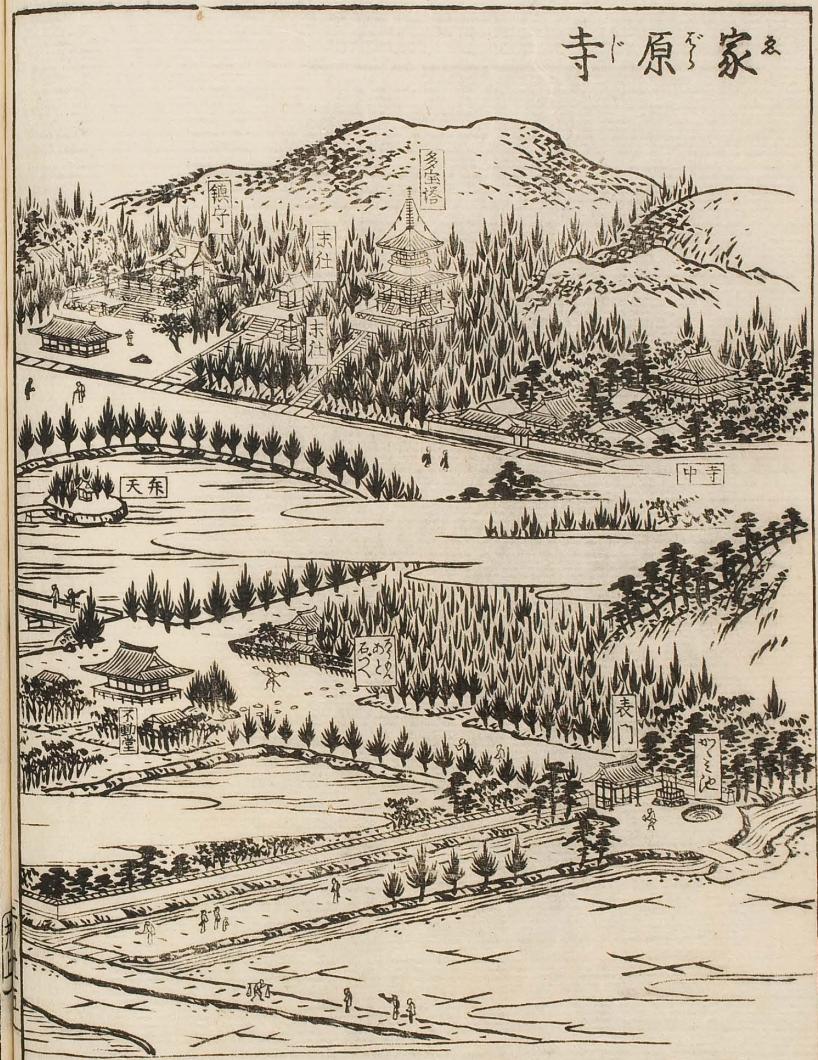
はふふだりゆえづくまれ一人住つて櫻解とくの二重とを京
のそく一日の糧に充飯炊く炊が餘ざると中畠次六の浦に有
る時々々々施する桂竈谷奥へとくの繁大井の川通ひを

弘川と稱す同一とすの店舗はくる

住せん秋とみちのさうれふまへうへ花の下店

若清水の奥小志や住るばかり其外高野の奥龍門の磨け盡ふど
世離れ一筋くわ住る数へと自己おりひ茶ひ並竹あくふ足ゆ八旬
のすりく和泉國躰尾の嘉富北村氏小身ふと見てそとふく殿モ
體は迷言へ弘川小おるありと同一との憤と築く著を訛
右二記の外仙老園書と題へて儀同公の序説をたゞま小書だけ
さうりのわう難活もあどり又萬葉百首とくまのもあうト界

家原寺



一
家原寺

家原村小より廟基行墓菩薩

左尊文殊佛

中興興正菩薩

左釋迦右普賢共小より基の化人半尊の毫中妙法八分の
達立の時菩薩一多塞塔太日妙本が安坐し天王波羅門尊者天平十八年南都東寺等

祖師堂

左弘法大師右興雲菩薩

本堂の後小より行基香燈木院と称す

不動堂

本堂の右小より

誕生木

本堂の後小より行基出生の時

龍穴小より經塔

小より

法生池

西内の内小より

樓門趾下後小より

自山

鎮守社

金峯丹生高麗等の神社本ある

聖天尊社

小より

岩寺塔深く生樹樂の聲が接ひは塔中

二王門

金剛力士二石田

門あふり行基毗盧の歌刻

支家原寺

中大修正行基出誕の家也

後あらためく

捨含

天智帝七年小生也ひ父も高志氏名

貞知幼名公法貴丸と號し百濟王の裔王仁の後之母も捨田

首虎

身の女茶師船と

今之捨田の茶林寺へ行基自記して曰

山海兩邊の中向小一參菩提峰と/orい慈尊成道の場地あり
靈山會場小異うべに西北に蒼海海上洋をそそぐ遙にちくろ
億國小念一觀法が九品に登一む其の狀ハ獅子小仰り北面に外
一ト首分左小回して南顧に池を穿て以て橋を則方と額へ丘尾を
崎耳へ道眼へ窟雕ハ仰毛も艸髮も蘿其狀宛然うニ國の土分
禪室を造り茶小高門を建く二金剛公寘左小達樓右小鼓樓
神公祀る艮小舍堂坤小龕基平居の禪室山上小も龍穴あり又
赤龍淵と/or前より漢高の靈公祠ることいり基の系脈百濟王北
遠祖へ西向の儀小放生池あり行基を守路のとれ里の年少矣
捕く池を小宴に獻且小膽公行基に薦む昂あれ公喫く池に
脣を吐ぬ一夕を小奥とう角と水上小游行目魚今小あり里人

奇異のちひをあてて墳の上に櫻わく。初生の時胞と掛は不きりこれ今に
誕生本とて方田ニ置わく。それ大ト田畔の歩段と檢る法則にて嶺
家原寺と號へ。行基の室が清涼院と號ひ。神聖乃南北崎公
神崎院とがづく外門少く則り。基誕生地と榜。佛塔成香燈
本院と號ひ都く。寺小名勝十區小達り。天正丙子年波羅門
僧正真金の文殊公本堂文殊の臺中に藏む。同トく将来の五色乃
佛舍利ハ寶藏に收め。法貴丸幼名の產髮。其の名財天等毎歲
六月廿二日虫拂小あす。續日本紀曰。大僧正り基都鄙小周遊
ノウヒテ詔一ノ大僧正公授く和尚の靈異神驗多し。時
百姓今に至つて其利を蒙るもの多く。豊櫻寺天皇聖武基教主
の人仰基菩薩と称し。留止の所みを道場と建。畿内より

卷之四十九院諸道小也亦多一竇小天平勝室元年二月丁酉

卷之三

文明一九年二月十四日晴
家原寺に詣て文殊像を
瞻仰致す。

ム
風の
う

卷之六

家原城主永禄十二年正月元日二好山城主入道笑岩齊兵衆進りく
兩士が攻ひけりて敗とちる半船は続いたゞく自害には時泉州
所々の要害十八ヶ所一時小敗走り後太平記
塔田村小舟に落番と拂はれりへ塔田もとく
今土人家原の奥見と便

卷之三

卷之二

卷之三

卷之三

六
秋

卷之三

○才一 天太日靈尊 父神天照太神 ○才二 大鳥余波比神社 父神日本武尊
○才三 中津尼波神社 父神兩入媛命 ○才四 鳥整敷神社 父神穴戸奈媛命

○第十五太鳥井瀬神社系神弟橘媛命

大鳥社舊云
出島社は景行天皇の皇子日本武尊より同帝廿七年日本武尊を遣
然後襲ふ聲一ひ拂菻十六丈と其勲功偉小一又同帝丁十年尊公一
東夷公討一む出陣の付道を狂く伊勢皇太神宮小治齊宮倭將今小
至羅銳公授之其より東夷公安く平げ凱陣の付伊勢國能褒母少
崩一ゆ一御歳三十昇其地小葬一まり陵より八乃の白髮毛に化一倭國ニ
死去ゆ一群臣其棺櫬を知りて又れを明衣室く留く屍骨乃一
使者公遣一ゆ白髮公乃一む帝倭國琴彈原小也ゆ又小陵公
ゆとも白髮更衣んく内國古市郡小至る又其地小陵公遣うてば
二陵公時の人白髮とて遂小高く廟く天小上りゆ一日本紀其後宮殿公
同國大野里に達て鎮坐一ゆ今の大鳥社とねく八乃の白髮鳥公ゆ
大鳥大明神と號一ゆ爾來一夜小種の樹木生じゆ小云種社といふ
一官記曰大鳥社へ日本武尊ゆひ一白鳳飛来つゝあくたとてゆ
これ天忍者外の所化ゆ

羅山本朝地理志畧云和泉國大鳥社ハいり神化して白鳳と成木
ちゆる集ら故小社と建てて之に公卿の號く大鳥とて
平治院治て平清盛同市盛慈聖小治タリ小洛陽の兵亂と聞く半途
ゆゆく和泉國大鳥神社に到つて和泉鹽平日愛する龍鹿毛とて名馬公
神馬に奉侍清盛初參ん取む
ヒ子をよひてかひかけをとてよだらの神 清盛
神宮寺 大鳥山勸学院神風寺といひ本堂の釋迦茶師阿彌陀院公
安仁初に行基菩薩の廟く所之堅補墨りて荒廢に及ば
一と寛文の初メ真政圓恩律師真言律院公建く尚圓の堂宇とて
社頭へ慶長七年十一月 豊臣秀賴公泉州五社公再興にて其後大坂
一乱小大鳥社兵火に罹く破滅一終に塔一基遊く荒地とゆり
一公寛文二年二月燐の光刺史石垣土佐守源利政石柱乃
居公建く再興に及ぶ其時神官寺行基井 潤泉耳味
律院も今のゆく創建ある
大鳥社 あ社の 明神影向石 塔社の小山あり此神石圓錐の後最に
來ざりて 明神影向石 頂れあり一公石垣土佐守源利政石柱乃
持保公庵あ小屋なり時に其夜靈變ありて神祟たるふ
絆を入れ替えた元の地一居し送りはる公神祭公宿くるる石の香炉
杉木本公植えをく
和寄二首分まつゆ
玉蘿小岩うち多く病うた國と浦川との大鳥乃神 利政
大鳥居王子 北王子村小わり 清き院慈母り幸記公又へ
とのことのこりと富木村小わり延喜式内
等乃伎神社 今文神と称す

玉蘿小岩うち多く病うた國と浦川との大鳥乃神 利政
大鳥居王子 北王子村小わり 清き院慈母り幸記公又へ
とのことのこりと富木村小わり延喜式内
等乃伎神社 今文神と称す

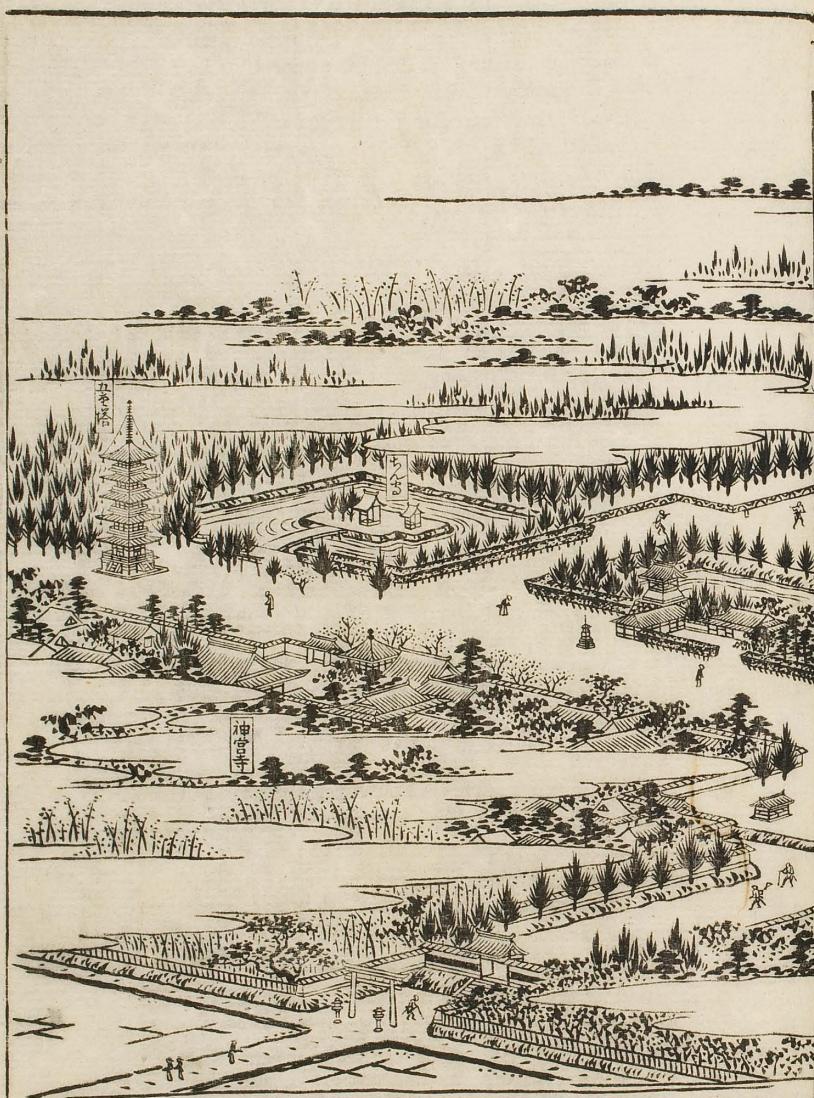
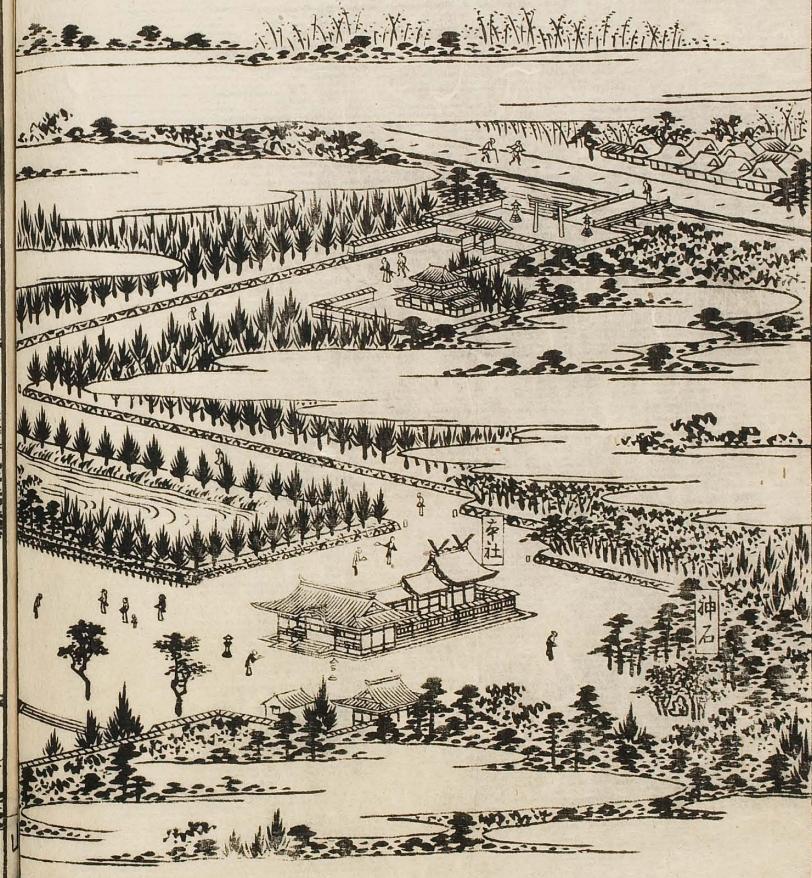
下石津太神社

海紀川下





大鳥神社



通範回蹟

船尾村ふり常樂寺といふ通範は高野山に住し仁治四年
原を大師の衣裳が開へて真頬をあらす御院入原へて船尾
村の產あれを種々うに來りて住に生涯無述の書籍若干耳く
今家徒小用ありもの多し竟小

建長四年五月廿二日入寂

千貫橋

今佐家村の通有小あり俗傳云ひは橋板みか沈香あり或人
一千貫の幣故に千貫橋と云ふ

濱寺回趾

北高石村の海濱小ありむづか元亨年中二岁國師の向創り
入大雄寺の右脇より伽藍龕をうへて封廻廢一今
度すと称する所南小井に町東西八町許一面の真砂地丘
古松多く西た後落小次ア赤石一の谷鉢根器あり
紀の海阿波の門遙に及びそ風系珍瓏とく自然
窟うちの傍地より一枝葉天皇御代りゆゑ減法众受ゆる太田國師比
枝葉禪林僧宝傳云二老和尚禪へ贊明又祖巌と號す奥州の
人ゆり後醍醐天皇御代りゆゑ減法众受ゆる太田國師比
跡法衣共賜へ又勅して大雄寺公

高石神社

王仁翁夢る今天神と称す

道遙院後高世紀り之

も師の松の下と天神のやへ祭のまへあらむ

高師

漢江の名也云高志高石小書にハ志師姓云高志候核泉小通に萬葉集

實薩

定家

一官記伊

前題實薩

新拾き

金華盛德

王吟

豪志と云ふ名のと高一の漢字もあらうと被のあらうと

御集

家集

後院

善法師

義隆

船頭

懷中

いのちある一の屋持般一われを信をのこしめられふる

後院

圓光

古本名跡和參集みか和泉圓光

今

あら河あらうの漢北をまねの名小と號吾が侍まつて

徳希

小志もあらのをまねふくにそぞかる事のタうと

續古

あらのくしきまのをあらひかひをひすれひらやも

口

汝風も夜やそひくおら河波と一の漢ふふをあらひ

金華

高志小志の漢北の漢北を波ひくや被せねどもあらひ

利千載

ねのあら河波のあら河波をよひぬをふくでらはく

口

から河波をらるる一河波の絲かふけもんとつれなれ

玉吟

ねはあら一の漢北汝風ふおひするねの絲をわかれ

豪志

うら波のあら河波の眞妙地ふおひするねの絲をわかれ

家集

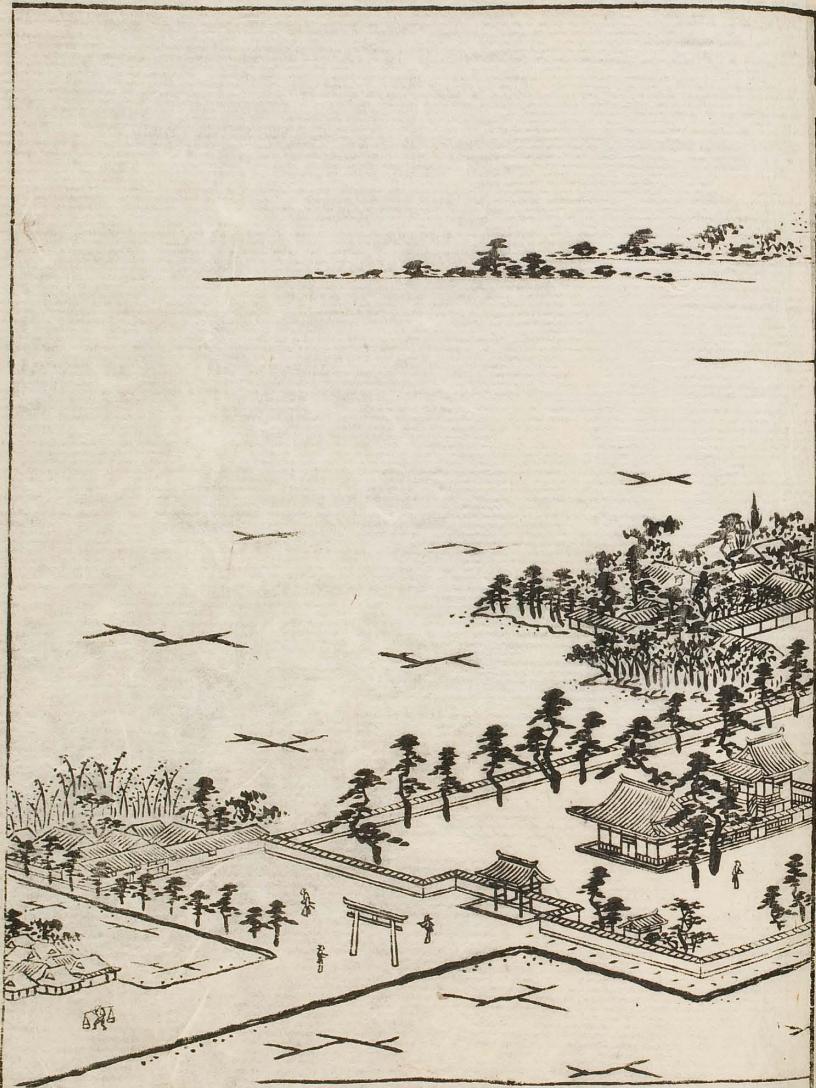
身をうる漢へ今もつとあると一の漢ふはり汝ねり

舟恒

いのちある一の屋持般一われを信をのこしめられふる

後院

日部くにべの神社
行興寺



おとす波さうーの渡せよみあわともそこりぬれきこゆ

隆信

支本
赤糸はるー北渓ふわるくのくほひてゆうくもおほへに
建保名所

院志良

沖は流さうーの渡せねもあぐねくそうの名ふこを立され

奥德院

よな波さうーたまのねうけうちまもるたまくらへを

定衡

すくとふ人々のけでもある處のさー北渓ふ神へめれば

吉内行

風あくと波さうー北渓ふねくめみうひにあくもくへめら

俊成女

おやく波のあく北渓ねのすくもじかーと毛小彌りばく

川家

あた名のさうー北渓のねう枝ふいうう風のこに吹くん

康元

おやく名のさうー北渓ふねくめみうひにあくもくへめら

範宗

新葉
あた名のさうー北渓ふねくめみうひにあくもくへめら

知宗

たのむくー人ふこうがおとて居さうーの渡せねそくーと

妙光寺

叶桂
風吹さうー北渓のあく波をほそとよぶけてよゑふくく

守親

大庭寺
守尊
守車尊
守車尊

日部神社
日部村小より延喜式内く日部の神社を主

行興寺
今牛頭天王とくと青沙神

牟尊不動明王
牟都村小より初めり基菩薩の御創りく日部神社の神宮

行者堂
役行者公安に修教大師の化く原江州伊香郡已高山乃

石燈爐
石燈爐大香郡草郡上条牛頭天王燈爐也正平二十三年酉卯月八日三云

洞小陰龍圓後下昇龍四隅小
四天王の像を龕を幽闇の名墨く

和田荘惠墓
和田村小より補正成の外城和田高遠^{アキタタカツル}築く^{アキタタカツル}高遠^{アキタタカツル}

和田荘惠墓
和田村小より補正成の外城和田高遠^{アキタタカツル}築く^{アキタタカツル}高遠^{アキタタカツル}

鷹田神社
產少神と作く

太平寺
太平寺大庭村小より延喜式内く今住者と林れ

大庭寺
大庭寺大庭村小より延喜式内く今住者と林れ

和田城趾
和田城趾和田村小より補正成の外城和田高遠^{アキタタカツル}築く^{アキタタカツル}高遠^{アキタタカツル}

和田荘惠墓
和田村小より補正成の外城和田高遠^{アキタタカツル}築く^{アキタタカツル}高遠^{アキタタカツル}

守車尊
守車尊

山井神社

梅村小あり延喜式内

鉢峰山

閑谷院

長福寺

真言宗古義

一

名

小倉嶺

と

鉢峰

山井神社

梅村小あり

延喜式内

菅草社

梅村小あり

延喜式内

金堂

梅村小あり

延喜式内

二層塔

梅村小あり

延喜式内

樓門

梅村小あり

延喜式内

初代の良乃方五町許小ありこれで襲事とゆふいに襲事とゆふいに襲事とゆふいに

天宣八年大熙寺神開と化一ノ山襲事とゆふいに

其後公祀日本聖杜神鄉とゆふいに

行天宣二十一年神開

神託に内ノ武内宿禰に今一ノ社が造る同立五年神開

移築に移は人の大名社として故に大名明神初く御殿の地

あるゆうに社が建て鎮め今一王門のあふわら

車尊茶師佛日光日光

金堂十二神將公安

二層塔公安

朱樓門公安

十二天公安

基法道仙人原天皇の人より播州法事山本末と法事經

頬一密觀公修に持まる所の齋奥千手大聖の像佛舍利寶鉢一時小

出山に飛來つゝ法道の店小入昂桂舍公仰坐をさとすに安坐に又

か鉢を虛空に施して供が受る人咸あくとれ故小名公鉢家と

りいみへ堂塔巖石とて傍傍四十丈院あり其中小閑谷院

釋迦院ハ法道仙人居住の地と什害小名阿食經の源書あり

弘法大師の真蹟と佛舍利十粒寶鉢一箇坐具一枚惠亮の獨鉢

又弘法大師真蹟の法事見室塔品の初一紙小松内大臣自筆の經

其外古證文制法等多

妙見山感應寺

上神谷富藏村

四方疊山城々と傍

傍

傍

傍

傍

傍

傍

傍

傍

妙見堂

深澤神

小原公祀

むし

法道仙人

小原

妙見菩薩

感深の坡

年久しく荒廢に及び

公安津川國寺の

形儀上人再當一とて經宗の守護神

十六日山の法會

諸人被集

り

り

櫻井神社

佐々木村郷

生土神

櫻井社頭

小あり

延喜式内

東神武内

東神武内

八幡宮公

田村

北村

麻

田村

田村

田村

陶器莊

昔へ大村郷

深坂村

高藏村

岩室村

辻村

大村

北村

麻

田村

北村

麻

田村

田村

田村

多く作り出でゆる

日本紀索神天皇七年の卷小曰

小豆郡小豆郡父田々根子公前るとあり又舊事紀大和已

貴神天羽車大驚に至る第渡縣事小下根之大陶祇女演玉

蘇と代るふと卒入轉使左衛門少尉紀令業等考一定く

國より人少く農家をうくる折紹上主中もく

麗邑の跡遺り一ノ時高倉寺の住居たる所也二代

實錄曰貞觀元年夏四月廿一日公内和泉有國陶器

とて古事記傳の陶器ありとて之が代へづけ北野基時代

已來の陶器の神代もともづけどきの急

鉢ヶ峯
長福寺



妙見山
感應寺

妙見山
感應寺



陶器庄
高倉寺

けやくの
土中より
今も陶器
が盛安ら
幸あれよ



陶山十景詩十首

林道春編作

○起蘋末飄颻者誰使然乎非金非石非管籥我耳往那聲未耶無心
○度曲敲寂莫對此聊亦傳奇響羽客步虛未騎鶴
○江上漁火泉南江上海潮通羣鱗浮沉西又東
○龜鮖鱗鱗轉動鯉夜來傍岩有澳翁宿處欲摘灣邊蓼
○愁眠相對橋畔楓運水熨蓑燒楚竹餘焰冷淡一破蓬
○點夕小星流岸泊熒々孤螢落蒲叢豈想蚌胎隨月耀
○何爲魚眼射波紅不啻鯨油映餽食疑是龍火灘燈釭
○曾聞和尚偷撫覲未逢啼鸞轡非熊水賓若登樵夫門
○須談王道世間公東吳門外日將西萬里風帆一葉齊
○斜日片帆不可見下碇到岸堤鰐躍北濱在窮髮
○蜜蜂產南交爲雕題蒼波百丈與天接紅雲三鳴使人迷
○浩蕩渺々晚潮急舟子聳負幾高低黃牛白狗經歷外
○更右如山長鯨貌逆施倒行莫誤柁鳴未依然舊夫妻
○炭竈孤煙記得白傅新樂府賣炭老翁奈風雨
○欲採薪材季秋天深山伐木腰鉏斧頭負夫入馬牛
○束縛布陳一入竈戶戶有翁婆及僕奴熏面爛手穿襪
○天地爐裏一陰陽化出紅麟與白虎火候已過得烏銀
○唯要寒時善價沽葦莊慳心秤可變豫讓異邦吞不吐
○寸灰淒々縛有星片煙裊々自如縹依俙墨子突不黔
○太鬃孫臏減其數春雲繡綻匹段細暮山紫淺敗素粗
○平有象似有吹猶殘博山一德炷望中杳靄靄霧非霧
○我願比屋民吹噓一夜林栖見羽毛千里遊人垂涕涕在北
○秋天未雁陽鳥攸居惟彭蠡飛未仲秋明月底

○對影怡情如故鄉安穩塞外雲家書元是萬金抵猶記二箇風雨床
○池塘春水瑤池蟠桃唇尚含昆明齋淪湛如藍
○四時就中春深好白鷗溶漾又淡々湖邊梅屋更何覓
○曉夜月樓先可探垂柳籠煙十里綠稚竹潤色三十簪
○逐水曲時舞征驂杖曳石髮高路穀生波紋未徃嵐
○最憐芳艸屬謝五相像株松期三樹影常浮早午晚
○萍君沼編葦逐水相遇涇東西南唯知鯉雙與鴻一未見鼈簿兼龜參
○固不見涇民共同樂王登害殿野老歌所歌盈耳歡聲多
○卷戶攘歌共服膺如右德熙々鼓腹更無它雞犬相聞不未往
○葛天浩唱雖世遠陶唐成功使人人和遂使天下謳歌舜
○古寺晚鐘寒殿前朝寺千年是靈嚴未逢僧掃
○葉先見鼠竄覩既及黃昏有蝙蝠飛化白鷗翻楓杉雁
○塔霜簾僊渢山風吹衫側縷揚寸莛蒲牢口不絃婆娑
○世界音說耳根難拔又難芟忽覺浮生添一日誰方陪
○曼陀散微聲佳人回首碧雲外蹕々隣騎脫簪銜
○荒田神社土生神火燒田蠶祖神高纏令數根令二度
○陶家主爲奴如有禮銜蘆既知避戈矰喙芒豈必謀稻米

いあへんちと編

陶器

高倉樹小めり
庄宗

卷之三

卷

金堂
行者堂
鎮守社
幽ふ文武天皇御宇慶安三年乃基菩薩開創
伽藍魏々坊舍數多わり永正十年癸酉十月十穀沙門
真海う畫そるある伽藍の古圖に至りて上方へは地名を脩惠院
とも称にあまの付具鏡の銘小日久安五年十月十八日大修惠院と鑄じ
又水天尊の影像あり弘法大師の真筆と正平年中大旱ゆれ勅あつて
祈雨の法が一七ヶ日成る像小修りあくまで忽焉雨頻不降て百姓太苦ふ
謂ひ又巨勢金剛が畫一佛像の一軸あり僧都ねばさの小五町小あり
これへ心傍都あくに未だそ鑿しゆく跡と心やス梵字芝とりへあり
高倉村より十町許東よりそ地上に梵字の形小凹ある土地あり年々

愚人ぐじんも煙えんとび又芝生しばはよだといへて萬院まんいんへ閑寂かんじき山棲さんせいの地ちよりくニ密ひそ乃

床ゆ涼すずしく白月祥心しやうじんが照てて鬼神きじんもしく服役ふくわくするの傍そばより
取石池とりいのいけ南みなみ高たか不ふたり一說いつせつ也よ信太鄉しんたさととも

万葉集 妹手平めでひら取石池とりいのいけ之浪なみ向むか從つ鳥音とりおと異こと鳴なづ秋あき也よ良之よし

所石頃宮そいのくに旧蹟きゆきせき御宿ごしゆ宮人くわんじん回まわるまわり也よ聖武帝セイムテ王律おうりつ傳つたい鶴つるの時とき

武庫川女子大学附属図書館

04462218